



発行所：特定非営利活動法人ベトナム子ども基金

〒113-8642 東京都文京区本駒込2-12-13 アジア文化会館内

電話/FAX：03-3945-2415

E-メール：info@v-c-f.org ホームページ：http://www.v-c-f.org/

ベトナム子ども基金通信

No.51
2010.9.10



春の木運動でもらったノートを大事そうに抱える小学生たち(2010.3 フー・イエン省)

私が初めてベトナムを訪れたのは、今から15年前の学生のときでした。大学で受講した講義の関係で研修旅行として、ハノイからホーチミンまでをバスで縦断する少し過酷なものでしたが、車窓からの眺めや、そこで出会った人々、おいしかった食事のことなど今でもはっきり覚えています。特に川を渡るとき、橋がなく大きな台船のようなものでバスごと渡ったことが強く印象に残っています。

その後、ベトナムを訪れる機会はありませんが、数年前、ベトナム子ども基金に入会し、この春より事務局のお手伝いをさせていただくことになりました。

勉強会に参加して一番の楽しみは留学生、元留学生の方たちの話を聞くことです。ベトナム高速鉄道の計画をめぐっての白熱した議論を聞くと、賛否両論ありながらも、若い人たちがこれから国を背負っていこうとす

る意志を感じました。一方、今号掲載のチャンさんの話は、国が発展していく中で、本当に支援を必要としている人たちがいることを教えてくれます。

今年より、我が家の子どもの同じ小学生の子どもの里親になりました。成長を見守りながら、未来に希望を持って勉強できるようにお手伝いしていきたいと思えます。

さかもと りょうこ
(坂本亮子)

理想や夢を追求し、実現できる仕事がしたい

～グエン・チャン・フォンさんインタビュー～

グエン・チャン・フォン(Nguyen Tran Phuong)さんは、ドンズー日本語学校から千葉大大学院(建築専攻)に留学し、卒業後、帰国してハノイで建築設計会社を設立しました。会社経営の忙しい身でありながら、青葉奨学生の選定や面接に関わっています。昨年のスタディーツアーで会社訪問させていただき、その夢と希望あふれる様子に感激しました。その活躍する様子を里親の皆さまや後輩の留学生に紹介したく、今号でぜひ原稿執筆を、とお願いしたのですが、多忙のため、インタビュー形式となりました。

ホウエさんと出会い、 日本留学を決意

ベトナム子ども基金・黒羽宏

(以下K): こんにちは。お忙しいところお時間をいただきありがとうございます。さて、このインタビューでは、フォンさんのこれまでの経歴、現在の仕事、今後の展望、というように、3つのステージについてフォンさん自身のことから、ベトナム全体に広げてお話をお聞かせします。まず、日本留学に至る経緯についてお聞かせください。

グエン・チャン・フォン(以下P): 私は、ハノイ建築大学(英語名:Hanoi Architectural University)を卒業してから、欧米に留学するチャンスがありましたが、ドンズー日本語学校の校長先生のグエン・ドク・ホウエさんと出会い、ドンズーの理念を聞いてから来日の決心を一夜で決めました。東京の日本語学校で1年間勉強してから、千葉大学に入学しました。日本で建築

を学びたいと思ったのは、建築家の安藤忠雄さんに憧れていたからです。そこで安藤先生に手紙を書いたのですが、先生は東京大学を退官することになっていて、退官後は大学で教えることはないとの返事でした。がっかりしましたが、日本で学びたいという気持ちは変わらず、2003年より千葉大学大学院で栗生明先生に師事し、修士号を取得してから博士課程中途まで研究活動を続けました。

K: 留学生活で、苦しかったことや楽しかったことなど、思い出に残っていることは何ですか?

P: 日本留学の動機のひとつに、早く親から独立したいという気持ちがあったのですが、来日したときの所持金は5万円しかなく、4万円のアパートを借りると生活費がなくなってしまう、苦しい思いをしました。来日当初は、日本語もできず、東京の日本語学校で勉強しながら、浅草で日本語の必要のない荷下ろしのアルバイトをしました。栗生先生の奥様のおかげで、週1回お茶のけいこをしました。動作を全部は覚えていないのですが、感覚が覚えています。いつかハノイで小さいお茶室を作りたい。来日5年目には、アジア文化会館の学寮・新星学寮で寮生活を送りました。そこでは3つの哲学、「生活主義、歴史主義、いのち主義」(注) というものがあって、これらの教えは私の心に残ってい

ます。

やりたいことが たくさんあり、起業

K: 日本留学を終えて祖国に戻り、起業することになった経緯は?

P: 研究者を志したこともあったのですが、私にはテーマがたくさんあって、研究活動として絞り込んでいくよりも、もっと広いテーマで仕事をしていきたいと思い、起業しました。

K: 現在のお仕事の内容と今後実現していきたいことをお聞かせください。

P: 私の会社では、大規模な、例えば公共事業的な建築ではなく、主に一般家屋を扱っています。ベトナムにおける建築は、やる事がいっぱいあります。仕事はたくさんある、やりたいこともいっぱいある、しかし、その中で私の理想や夢を追求、実現できる仕事をしていきたいと思っています。

K: その夢、理想とは?

P: テーマとして表せば、「環境と建築」ということでしょうか。環境、特に植物ですね。それは、単に建築に使う材料とし



グエン・チャン・フォンさん

ての植物ではなく、環境と建築の調和、共存ということです。環境問題は、世界的に重要な問題ですし、こうした環境と人間との関わりを、大きなシステムとして捉え、それらが共存・共生できるようなシステムを作っていきたいと思っています。私は植物が好きですし、スタッフにも植物好きが多いので、こうしたコンセプトは共有されています。

K: 仕事をしていく中での喜び、苦しいことはどんなことでしょうか？

P: 起業して、資金を集めたり、「家族」としての社員へ給料を払ったり、それは大変なことではありますが、やりがいでもあります。また、私たちの仕事はベトナムの発展、さらに広げて世界の発展につながることであれば、大変うれしいですね。

環境、建築、植物で 世界を目指す

K: 今後、会社はどのようになっていくますか？

P: 日本の工務店などとも連携して、コストが安く、エコな住宅を提供していきたいと思っています。環境、建築と植物、これはベトナムだけでなく、日本やアメリカなどにも共通するテーマだと思いますので、その分野から世界へ進出していきたいとも思っています。幸い、スタッフには日本留学生の後輩や、ドイツで勉強してきた者もあり、優秀な人材に恵まれています。そのスタッフの教育には、例えば1日のうち2割は、それぞれのテーマを持って自由に勉

強、研究する時間を与えています。また、日本や各国へ留学した先輩たちとの交流も深めており、今度、彼らと共同で、さまざまなテーマによる本の出版を計画しています。それはベトナム語と英語での出版になります。

K: それは大変楽しみですね。さて、日本との関係はどうなっていくのでしょうか？

P: ベトナムは、日本からODAにより多くの支援を受けています。私はこれだけでなく、民間レベルでも透明性の高い交流、援助を求めていきたいと思えます。

K: 後輩たちへ何か言いたいことはありますか？

P: 後輩たちには、若いころから自立、独立精神を持って、自分の夢や希望を持って、それを実現するための努力をしていってもらいたいと思います。失敗してもやり直しはきくのですからね。でも、私は、ハノイの建築大学の後輩との交流などで、むしろ後輩たちから希望をもらっています。

K: 最後にベトナムの将来については、どのようにお考えでしょうか？

P: ベトナムでは、教育や道徳



ハノイ建築大学の学生を指導

の問題があります。教育や道徳は、将来のよりよい発展のために欠かせないものであり、特に教育は、学校教育だけでなく、生涯教育も充実させていかなくてはなりません。また、私は、「旅行」ということに関心があります。これは、旅行そのものとdestination、目的地へたどり着くことによって、いろいろな文化と交流できるということです。しかし、そのためにはそれぞれのdestinationに独自の文化がなければなりません。

K: 本日はお忙しいところ、貴重なお時間をいただき、ありがとうございました。とても希望があり、元気の出るお話でした。今後のご活躍をお祈りします。

P: こちらこそありがとうございました。私も青葉奨学会のためにできることは精一杯協力しますのでよろしくお願ひします。

(2010年7月17日 ハノイ Waviet Corporationにて 文責・黒羽)

(注) 新星学寮の3つの哲学
「いのち主義」とは、生きとし生けるものの命はすべて平等であるということ。「歴史主義」とは、いのちは平等であるのに、自然界には食物連鎖があり、人間の世界には例えば民族の支配・被支配というような関係もある。つまり、そのように生きてきた私たち人間の「歴史的反省主義」といってもいい。そのようなことを理解して、自分の生活に反映させてゆくのが「生活主義」であり、どのような高い理想を持っていても、自らの生活に反映できないなら意味がない。

ベトナム子ども基金通信50号に寄せて

ベトナム子ども基金通信が2010年6月5日発行分で創刊50号となりました。関係者の労をねぎらい、お祝い申し上げます。私はベトナム子ども基金発足時からの会員ではありませんが、「通信」のバックナンバーを送ってもらい、第1号から持っていました。将来貴重な資料になると思い、B5判の第40号までを東京・清瀬市にある日本社会事業大学の社会事業図書館に寄贈し、保存・活用してもらっています。第41号以降の分についても一定の量に達し次第、同じよ

うに寄贈しようと思っています。

私と子ども基金との関わりは、1995年からです。12月21日付の近藤代表名の文書があります。私の問い合わせに対して送ってくださった資料の表書きです。そして、翌1月19日付の文書には、私の最初の入金があったこと、現在254名の参加があることなどがつづられています。私が子ども基金を知ったのは、たぶん、朝日新聞の記事だと思います。

私の里親歴は14年で、里子は

3人目です。最初の里子はホーチミン市の女兒で6年支援しましたが、半官半民の学校へ進学したため支給打ち切りになりました。2人目はロンアン省の女兒でしたが、1年だけでいずみ基金に移りました。今の3人目の里子はゲーアン省の女兒で、7年続いています。今後もできる限り支援を続けたいと思っています。そしてベトナム子ども基金通信のますますの充実を祈っております。

ふじたせんざぶろう
(藤田専三郎)

2010ベトナムスタディーツアーのご案内

今年もベトナムの里子たちを訪問し、学校施設を見学するベトナムスタディーツアーを企画しております。さまざまな出会いと感激をぜひ！！

期日：2010年11月20日(土)～27日(土)：27日早朝帰国

訪問地：ハノイ、ホーチミン及びその周辺

費用：13万～14万円くらい

成田ーベトナム往復、ベトナム国内便代金、ホテル6泊代(朝食付き)、昼夕食代、現地移動代、ガイド代等。ただし、個人で里子宅訪問の場合は、1日当たりレンタカー代+ガイド代で約1万円別途かかります。

内容：学校・施設訪問、里子との交流パーティー、里子個別訪問、観光など

参加予定数：約10名前後

参加(予定含む)申込み：9月20日(月・祝)まで

参加最終確認：10月10日(日)

*お問い合わせ、参加申込みはベトナム子ども基金まで(担当：黒羽)



昨年のツアーでの里子交流会

2010年定期会員総会議事録

特定非営利活動法人ベトナム子ども基金

1. 総会の種類 2010年定期会員総会
2. 招集年月日 2010年6月5日
3. 開催日時及び場所
(1) 開催日時 2010年6月19日(土曜日)午後2時
(2) 開催場所 アジア文化会館教室 東京都文京区本駒込2-12-13 アジア文化会館
4. 会員数及び出席会員数
(1) 会員数 262人
(2) 出席会員数 238人(本人出席23人、委任状出席215人、書面出席0人)

5. 議長の氏名

高橋 強

6. 議長選任の経過

定刻に至り司会者 南康雄が開会を宣し、続いて理事長 近藤昇があいさつした。司会者が本日の2010年定期会員総会は定足数を満たしたので有効に成立する旨を告げた後、議長の選出について諮ったところ、満場一致をもって高橋強が議長に選任された。続いて議長からあいさつの後、議案の審議に入った。

7. 議事経過の要領及びその結果(議案詳細は前50号に掲載)

第1号議案 2009年活動報告

第2号議案 2009年決算報告および会計監査報告

議長は、事業報告を近藤に内容を説明させた。続いて樋川から、会計に関する報告があり、監事岡村から、会計書類は綿密に調査したところ、法令に照らしいずれも妥当であることを認めた旨の報告がされた。議長はこれを議場に諮ったところ、満場異議なく承認された。

第3号議案 2010年活動計画案

第4号議案 2010年予算案

議長は、事業計画案を近藤に、収支予算案を樋川に内容を説明させた後、これを議場に諮ったところ、満場異議なく原案通り可決決定した。

以上ですべての議案の審議を終了したので議長は退任のあいさつを行い、午後2時30分に閉会した。



感謝の気持ちをいつも心に置いて

2010定期会員総会スピーチから～ドアン・ティ・トウイ・チャンさん

2010定期会員総会の後に行われた、元青葉奨学生で新潟大学工学部4年生のドアン・ティ・トウイ・チャンさんのスピーチをお届けします。

皆さま、こんにちは。私はベトナムの中部ダナンから参りましたドアン・ティ・トウイ・チャンと申します。現在、新潟大学の4年生です。私は中学1年から高校3年までの7年間、青葉奨学金をいただきました。今日は、人生を変えるくらいに青葉奨学金と出合った私のこととお話したいと思います。

屋根のない家

私は3人姉妹の2番目に生まれました。皆さんベトナム戦争をご存じですよね。たまたま父と母がどちらも昔の政府、戦争前の(南の)政府とちょっと関係がありました。それで戦争が終わったらお金もないし何もなくて、父は毎日力仕事しかできませんでした。母は家で私のダウン症の妹の世話をしていて、私の小さいころは本当に貧乏でした。家は寝るところにしか屋根がなくて、いつも父が冗談で「千星ホテル」と言っていました。本当に寝るときには空が見えるんです。でも、私が小学校4年生のときに担任の先生が家庭訪問に来て、「こんなことがあるから」と、2年間にわたって私のことを青葉奨学生に推薦してくださいました。それでやっと、中学1年生になって青葉奨学金をいただくことになりました。

初めて奨学金をもらって

今でも忘れられない思い出があります。最初に奨学金をいただいた帰り道に、母がちょっと店に寄って、私の大好きな練乳(コンデンスミルク)を20缶も買ってくれました。すごくうれしかったです。普段はちょっとしか飲めない練乳が、そのときだけは、いっぱい飲んで…なんか大金持ちになった気分でした。本当に、本当に、うれしかったです。その日は私、生まれてきて一番幸せな日だったんです。

青葉奨学金は私の支え

教科書などは、いつも知り合いかから全部古い本をいただいでいました。私には2つ年上の姉がいて、先に姉がその本を使います。私の番になると、本はぼろぼろになっていました。また、教科書は私が使うときには内容が変わってしまったものもありましたが、その教科書で勉強していました。奨学金で参考書を新しく買ってもらって、私は参考書を読むのが好きになりました。寝るときも参考書を枕元に置いて、何回も読みました。それで思いがけず成績も伸びて、中学校卒業までには成績は学校全体で2番目になりました。

高校はダナン市の一番有名な高校に入りました。その高校は塾に行かないと入れない難関校だったので、生徒はお金持ちの子ばかりです。私は塾に行かなかったんですけど、その高校に

入って、周りから「あの子はなんであそこで勉強するの?」と、不思議に思われました。ですから、私にとって青葉奨学金は経済的な面だけではなく、精神的にもいろんな支えになってくれました。

日本への思いと青葉の仲間たち

もうひとつ、青葉奨学金は私に、日本へ留学したいという思いをくれたと思います。里親さまに手紙を書くことによって、日本の国はどんな国なのだろう、とか、日本の方はベトナムのことをどう思ってくれるの、とか気になって、友だちや大人の人に聞いたり、自分でも調べたりしました。それで自然に日本のことに興味を持って、日本に行ってみたいなああと中学生のときから思うようになりました。

そして、青葉奨学金の仲間も、私にとっていい刺激をくれました。みんなそれぞれいろんな家の背景を持っていますが、すごく明るくて、頑張り屋ばかりです。私くらいの家族の背景とかその程度ではなくて、もうお父さんもお母さんもいなくなっている友だちとか、食べるものもないくらいの子もいまし



ドアン・ティ・トウイ・チャンさん

た。それでもみんな何でもないので、話してくれて、勉強も成績がトップみたいな子も多かったです。先輩を見ると、お金がなくても、普通にシンガポールとかアメリカに留学したり、特に日本に留学する人が多くて、それを見て私も勇気をもらっ

て、自分も日本に留学しようと決意しました。

今やっと日本に来て、新潟大学でもう4年生になって、将来はまだはっきりわからないですけど、でも私たちはどこにいても、何をしても、里親さまへの感謝の気持ちをいつも心の中に

置いて、いい人生を送りたいと思っています。それくらいしか恩返しできないと思いますが、私の、私たちの成長を見守ってください。ありがとうございます。

ベトナム青葉奨学会を紹介します

ベトナム青葉奨学会は、国内や海外の各団体や個人からの支援を貧しい子どもたちに届ける役割を担っています。事務局は月曜日から土曜日まで開いています。現在日本人スタッフはいませんが、ドンズー日本語学校の先生がボランティアとして、日本語で対応することに努めています。

履歴票の作成と里子の選考

青葉奨学金を継続して受け取るためには、1年ごとに願書を送り直さなければなりません。9月に学校が開校するのに合わせて、毎年8月半ばころ、事務局は各省の奨学会や学校に再応募するための願書を準備します。里子をより管理しやすくするため、里子に番号を付けてあるので、まず、履歴票を印刷して、里子番号を記入してから、郵便で送ります。そして、里子が履歴票を作って9月30日までに事務局に返送します。

履歴票が届いたら、こちらで選考します。まず、書類が足りているかどうか、記入した情報が詳細なものかどうかをチェックしなければなりません。「家は貧しいです」とか「お金がありません」としか書いていない履歴票を選別し、その里子の家

に連絡し、家はどのような状況なのか確認します。もっと詳しい情報を得たら、履歴票に補足します。家に電話のある里子ならすぐに対応できますが、ない場合は各省の奨学会や学校を通さなければならず、大変時間がかかります。事務局で選考する期間は約1カ月半で、11月の半ばまでの予定となっています。効率的に進めるために、全部の履歴票を完成させてから日本へ送るのではなく、20通くらい完成するごとに日本へ送ります。そうすれば、お互いに待つ時間が少なくなります。

里子の手紙のチェック

里子から里親への手紙をチェックする作業は一年中やっています。里親からの手紙をベトナム語に訳して、里子へ送る作業もあります。毎回同じことを書いている里子には、もう一度書くように連絡します。手紙は里親との唯一の情報交換をする手段なので、生活に関する情報を書くよう里子に指導し、事務局に届いた手紙は日本へ送ります。

「春の木運動」

ベトナムのお正月に向けて、

子どもたちへのプレゼントという「春の木運動」を開始します。文房具や制服などのプレゼントの支援を呼びかけるポスターを作って、これまで支援していただいた各会社へ送ります。主な会社は日系企業です。12月になったら、寄付を名乗り出てください。会社まで受け取りに行きます。日本からお金の寄付もあります。その寄付金で、基本的には制服なのですが、何を購入するのかを、その年の状況によって判断します。それから、バイクでホーチミン市周辺の農村部へ行って、子どもたちにプレゼントを直接渡します。昨年度は台風だったので、制服の代わりに、中部、北部の子どもたちに72,000冊のノートを送付しました。

黄梅奨学金の送金

優秀だけれども貧しい学生を、各省の奨学会に選んでもらい、黄梅奨学金を各省へ送ります。この奨学金は年に1回ベトナムの旧正月の前に支援しています。

青葉奨学金の授与式

旧正月の休みが終わった2月の半ばころ、ホーチミン市で青

葉奨学金の授与式を行います。会場を借りて、里子が1日一緒に遊んだり、お正月の楽しかったことなどについて話します。第1回目は式として外部で行われますが、その後の5回は2カ月ごとに青葉奨学会の事務局のある、ドンズー日本語学校で奨学金を渡します。

地方の里子への奨学金の送金

ホーチミン市以外の里子たちには、1年に4回、3カ月ごとに郵便で奨学金を各奨学会や各学校へ送ります。それには意味があります。奨学金の受け渡しのときに、先生たちは里子から勉強のことや、生活について聞きます。そして、何か特別なことがあれば、事務局に連絡しても

らいます。また、里親に手紙を書くように里子に伝えてもらいます。

そのほか、日本の里親が知りたいことがあれば、Eメールで送ります。ほかにも細かい作業を行っています。例えば、里子が転居する場合や、亡くなった場合も、こちらから里親に伝えなければなりません。また、里子が途中で学校を辞めて、仕事を始めた場合も里親に報告します。データの整理と管理も重要なので、これからも日本とベトナムの情報を共有できるように頑張っていきます。

(ベトナム青葉奨学会事務局
ファム・タン・シュン)

ファム・タン・シュン (Pham Thanh Xuan) さん：元青葉奨学生で元日本留学生。現在、ホーチミンのドンズー日本語学校教師であり、ベトナム青葉奨学会の事務局も担当。里親会員の里子訪問やスタディーツアーの際には、現地手配や通訳・ガイドとして活躍しています。今回は、あまり紹介することのなかったベトナム青葉奨学会の業務について紹介してもらいました。



ファム・タン・シュンさん

ベトナムからの手紙

奨学金に励まされて ゲン・ティ・フン・ディ

この1年間、私と家族は里親さまの送ってくださった奨学金を頂いています。これは私の家族にとって、これまでに受けたことのない大きな喜びです。

父が重い病気になって両足を切断してから、家族には笑顔がありません。家は静かになりました。人の住んでいない荒れた家のように。父は両足が切断されただけですむかと思われましたが、去年病気が手の指先まで転移して再発しました。お医者さんによれば、すぐ治療しないと両手も切断しなければならないとのことでした。そしてこの病気を治すにはかなりお金が

かかります。お医者さんにそう言われて母はどうやって父の病気を治療するか心配しました。お金がないので、仕方なく住んでいる家と土地を売って、父の治療費に充てました。いろいろな病院に行って、治療できるかどうか聞きましたがどこのお医者さんも首を振って、もう治せませんと言いました。とうとう元の病院に戻って、両手を切断しました。

家が売られ、私の家族は村の荒れた家に移りました。家の中には私たちの教科書、鍋以外に値打ちのあるものはひとつもありません。今は、毎日の食事にもわが家は頭を痛めています。おかゆと野菜ですませています。そんな中、里親さまの支援のお金を頂いて、私の家族は大きな喜びを感じました。私たちの勉強と食事にとってありがた

いお金です。

半月学校を休んでから授業に戻りましたが、自分で頭がよくなったような気がします。教室に戻ったときには、ほかの学生に追いつけないかと心配しましたが、第1学期に学校の優秀な学生になりました。またつい先日は、村と県の体操・体育大会に参加して1番になりました。里親さまの支援は、もっと勉強を頑張らなければと、私に対する励ましです。ときどき勉強のことでプレッシャーがありますが、将来日本へ留学することを考えたら、いつの間にかそのプレッシャーも消えてしまいました。私はいい成績がとれるようにもっと頑張らなければなりません。

世の中に里親さまのような人がたくさんいらっしゃったら、必ず世界の貧しい子どもたちが

学校へ行くチャンスが増えると思います。そしていつか国の発展の役に立つような人材になると思います。里親さまのこのような恵まれない学生に対するご支援、本当にありがとうございます。私はこれからも里親さまや自分の親の期待を裏切らないように頑張っただけ勉強します。

最後に里親さまのご健康、ご成功をお祈りします。

苦しみを乗り越え、 よりよい生活に グエン・チャップ・ドウオイ

里親さま！奨学金を受け取りました。私はそのお金で学費を支払いました。里親さまには心から感謝いたします。

里親さま、もうすぐ高校入試があります。現在はその勉強でとても忙しいです。私は頑張っただけ力を出しきって高校に入るつもりです。私は自分の気力を信じないわけではないけれど、とても心配です。里親さま、私にいいアドバイスをしてください。

先日、私の村が池を開放したので、私は貝や魚をたくさん採ってきました。いっぱい食べて満足しましたよ。現在私の姉は、レンガ作りの仕事に出かけています。しかし、その仕事は給料が低い上に、働いた分の賃金が未だに支払われていません。未払い金額はますますかさんでいるのに、雇い主は一向に支払ってくれません。姉の子ども、私のおいは3歳になったけれど、相変わらず非常にやせています。毎日の暮らしがどうあろうとも、よく遊び、よく泣く無邪気で明るい子どもです。生活がどんなに困っていても、家

族みんなはおいの世話をしています。

現在、私はすでにもう生活とは何かがわかるようになりました。「生活は身近なところでいろいろ出来事が起こります。不安や失敗もあります。私たちは生活をよくするために苦しみを乗り越えなければなりません。わからないことがあったら調べて、いい方法を見つけなければなりません」。そのようにして、私は生活をよりよくする決心をしています。

私の家族ですが、両親は早くに亡くなりました。姉は非常に苦労しています。だから私は、里親さまや先生方、家族の期待を裏切らないように一層努力して勉学に励んでいます。ここでペンを置きます。まだ勉強が残っています。里親さまとご家族皆さまのご健勝を祈っています。

ずっと勉強できるように 頑張ります H・ムン・ニエ

里親さま、昨年母が里親さまあての手紙を書いて送りました。本当は、里親さまへの手紙は自分で書きたかったのですが、僕がまだちゃんと文章を書けないと母は心配して、代わりに書いてくれました。今はもう自分で里親さまに手紙を書きたいと思っています。

里親さまからのお手紙を頂きました。その中に定規と里親さまの写真があつてうれしくて感動しました。母は里親さまのその写真を大きなサイズに焼いて家に飾っています。知り合いに「どなたなの」とよく聞かれています。そのたびに母は、「う

ちの子を支援してくださっている恩人の方なのよ」と誇りを持って答えています。みんな里親さまが優しそうな方だと褒めています。

今度、記念に僕の家族の写真を里親さまに送りたいと思います。この写真に兄だけは写っていません。実は、僕の家族は9人です。叔母、父、母、兄3人、姉、そして僕と妹です。父は、腎臓と脊髄（せきずい）の病気があり、母は頭痛持ちで心臓が弱く、あまり仕事ができません。それで、上の兄3人はもう勉強をやめて働いています。経済的に余裕はありませんが、僕はできる限りまで勉強したいです。

奨学金のおかげで学費を支払い、学用品を買うことができ本当に感謝しています。今年6年生です。今年の前期は学力「良」でした。まだまだですが前より成績が伸びました。学校の先生はみんな熱心に優しく教えてくれます。友達もいろいろ教えてくれます。家では家族のみんなも僕の勉強を応援しています。こんなよい環境を僕のために作ってもらっているので、僕も頑張らなくてはと思いました。妹はまだ学校に行っていないですが、家の手伝いをしています。

今よりも勉強ができるように里親さまからもいろいろアドバイスをしてください。将来できたら日本に留学し、ベトナムの発展に貢献したいと思っています。

最後になりますが、里親さまとご家族の皆さまのご健康、ご幸福を祈っています。

日本に留学するのが夢

ヴ・ティ・ミン

初めに里親さまのご健康とご幸福をお祈りいたします。そしていつも若くてきれいでいられますように！

里親さま、昨日奨学金をもらいました。里親さまはいかがお過ごしですか。仕事は順調でしょうか。お許しいただけるなら、里親さまのことを少しでも知りたいのです。

里親さま、私は県の優秀学生という試験に合格しました。すごうれしくてすぐに里親さまに報告したかったです。里親さまからのご支援は本当に感謝しています。周りの皆さん、父母、学校の先生、友達にもいろいろお世話になっています。おかげで、私は人々の温かい愛情で成長していると感じています。

今、私には夢があります。いつか好きな日本に留学し、新しい知識を学び、将来ベトナムの発展に貢献することです。そして、父母や里親さま、学校の先生に恩返ししたいと思っています

す。

いつか、日本に留学し、里親さまに会いたいです。外国のあちこちへ行って自分の知識を広げたいのです。一番いいのは日本語を覚えれば、里親さまと日本語で話すことができますね。こんなに優しくしてくれる里親さまはきっときれいで、周りの方々に信頼されている方でしょうね。もしできるなら、里親さまの写真を送ってくださるとうれしいです。

私の家族は6人います。祖母、父、母、姉、私と妹です。私と妹はまだ学校に通っていますが、姉はもう結婚し働いています。両親は農業をしています。祖母は家で家事をしています。今ふと思いましたが、里親さまはご結婚されていますか。もし結婚しているなら、ご主人さまはきっと優しい方でしょうね。

暇なとき、里親さまは何をしますか。私は暇なときは、母を手伝って家事をしています。ところで、里親さまは誕生日の記念に小物など作ることはありませんか。私は、里親さまの誕生日

に手作りのプレゼントを送りたいです。里親さまのお誕生日はいつですか。お知らせください。

里親さまのお返事を待っています。もし里親さまと英語で手紙のやりとりができるとうれしいです。

さて、『王家の紋章』という漫画を読んだことがありますか。私はこの漫画が大好きです。特に、きれいでかわいく心が優しいキャロルという人物が好きです。『王家の紋章』の漫画以外で日本の好きな漫画は『伯爵令嬢』『ドラえもん』『名探偵コナン』などです。

里親さまのご支援を無駄にしないように勉強を頑張りたいと思っています。



里子の手紙お届けの遅れについてのご報告

里親の皆さま、今年になって里子の手紙が半年以上もかかってお手元に届くという事態が起き、ご迷惑をおかけしました。手紙を書いた里子にも、手紙を待っていらっしゃる里親さまにも申し訳なく思っています。

手紙に同封している「お知らせ」でご存じかと思いますが、里子の手紙は、里子の通う学校→ベトナム各省の奨学会→ホー

チミン市にある青葉奨学会(ある程度、数がまとまった段階で)→日本のベトナム子ども基金→日本国内での翻訳作業→里親さまへ郵送、という順序で皆さまのお手元に届きます。このような過程をたどる途中で、時間がかかってしまうのですが、今回の遅れはあまりにもひどいので、ベトナムの青葉奨学会に問い合わせをしました。その結果、各省の奨学会が、ほかの書類と併せて送付するために手紙を留め置いていたということが

分かり、今後、各省の奨学会には手紙だけを先に送るように注意したとの報告がありました。また、なるべく早く手紙が里親さまのお手元に届くように、当基金でも日本人翻訳ボランティアの方々に加え、ベトナム人留学生有志の協力を得て、翻訳時間の短縮を図る努力をしています。

今回の遅れをおわび申し上げるとともに、今後ご支援・ご協力くださることをお願い申し上げます。

●事務局から

◆ご入金報告 ご支援ありがとうございます(順不同・敬称略) (「新」は新規会員)

2010年4月(追加)

2010年5月

2010年6月

2010年7月

*お願い：通信送付の際の封筒宛名に、里親会員と一般会員になられている方には、会員番号と最終入金日が記入されています。年会費の納入をお忘れなきよう、お願いします。

◆ベトナム子ども基金会員募集！(友人・知人をお誘いください。ご協力をお願いします！)

里親基金：年額1口 20,000円 学生会員：年額1口 10,000円	特定の子どもに「里子」として奨学金を支給する「里親」になっていただきます。ベトナム青葉奨学会から、子どもと家族の状況を説明する履歴票が届き、里子との手紙のやりとりができます。
一般基金：年額1口 12,000円	子どもたち全体の「里親」という関係を想定しています。通信を通じて会の運営報告、子どもたちの様子などをお伝えします。
賛助基金	一般基金に準じます。金額、回数などいっさい自由です。
学校建設黄梅基金	青葉奨学会と相談の上、ベトナムの辺地に学校を建設します。該当学校に青葉奨学金を併設することも可能です。
個別黄梅基金：1口30万円以上	個人またはグループで黄梅基金を設立し、預金利子を奨学金とします。基金の名前、支援地域・学校等は、ご相談のうえ決定します。
ベトナム黄梅基金：1口10,000円	複数のベトナム子ども基金会員で基金を設立し、預金利子を奨学金とします。

ベトナム子ども基金へのご寄付は、下記の口座をお願いいたします。NPO化で口座番号が変わりました

口座名(共通) 特定非営利活動法人ベトナム子ども基金 (カナ)：トクヒベトナムコドモキキン
里親基金用(一般、賛助基金を含む)

郵便振替 00100-6-546799 銀行(みずほ銀行駒込支店) 普通1121865

黄梅基金用(個別寄付、学校建設を含む)

郵便振替 00130-4-552361 銀行(みずほ銀行駒込支店) 普通1121873



◆事務局だより

日ごろより、温かいご支援を頂きまして、誠にありがとうございます。里子にプレゼントを送りたいと考えている、里親さまにお願いがあります。ベトナムでは、海外からの荷物を受け取る際に税金を支払うシステムがあります。ボールペン1本、ノート1冊にも税金が発生します。税関で、中身の値段がいくらくらいするのかチェックし、その価値に対する税金を支払うという仕組みです。価値の判断は税関の係に委ねられており、明確に「ノート1冊=●\$」というような基準はないようです。荷物が届いてみないことには、どの程度の税金がかかるのか、私たちも分からない状態です。中には、里親さまの気持ちに伝えるため、里子の家族が高額な税金を払い受け取らなければならないこともございます。皆さまがプレゼントをお送りくださるお気持ちや、子どもたちのことを考えてくださっていることには、大変感謝しております。プレゼントをお送りくださるときには、事務局までご相談いただけますと助かります。(事務局長 樋川)

◆お願い

個人さまで里子訪問にベトナムを訪れる際、ベトナム青葉奨学会がコーディネートを行います。訪問には現地スタッフ(主に、前ページで紹介したシュンさん)がガイド、通訳をしてくれます。その際、同行者の交通費等の実費、ガイド・通訳代(1日につき約5,000円～、距離・時間等で変わります)を、現地同行スタッフに直接お支払いください(青葉奨学会及び子ども基金から日当は支給しておりません)。よろしくお願ひします。

ベトナムの今!

ベトナム社会主義共和国

面積 329,247平方キロメートル(日本の0.88倍)
 人口 8,579万人(2009年12月31日付)
 ハノイ 644万9,000人
 ホーチミン 712万3,000人
 実質GDP成長率 5.3%(2009年)
 一人当たりのGDP(名目) 1,060ドル(2009年)
 一人当たりの平均月収(全国平均2008年)
 2,159,000ドン(約9,500円)
 消費者物価上昇率 6.6%(2009年) 前年=100
 失業率 2.90%(都市部:4.60%、農村部:2.25%)
 (2009年推定値)
 対日輸出額 62億9,181万ドル(2009年)
 対日輸入額 74億6,809万ドル(2009年)
 人口増加率 0.977%(2009年推定値)
 平均余命 男性 68.78歳(2009年推定値)
 女性 74.57歳(2009年推定値)
 識字率 平均 94%(2003年)
 女性1人が生涯に生む子どもの数
 1.83人(2009年推定値)

主要輸出品目

原油、縫製品、履物類、水産品、コメ、木製品、
 電子製品、コーヒー、天然ゴム、石炭等

主要輸出先

アメリカ20.9%、日本13.7%、オーストラリア
 7.4%、中国6.9%、ドイツ4.5%(2008年)

主要輸入品目

機械・設備類、石油製品、肥料、鉄鋼製品、綿
 花、穀物、セメント、バイク等

主要輸入元

中国21.3%、シンガポール11.7%、日本10.4
 %、韓国7.4%、タイ6.6%(2008年)

GDP産業別構成比

農林水産業 22% 鉱工業・建設業 39.9% サ
 ービス業 38.1%(2008年)

インフレ率 24.4%(2008年)

携帯電話契約件数 5,800万件(2008年)

インターネット利用者数 2,067万人(2008年)

兵役義務 18歳より2年間(2006年)

出典:JETRO、General Statistics Office Of Vietnam等のHPより

ベトナム青葉奨学会 QUY HOC BONG LA XANH 電話: 84-8-8477359 FAX: 84-8-8477527
 C/O TRUONG NHAT NGU DONG DU 43D/46 Ho Van Hue, Q. Phu Nhuan, Ho Chi Minh, Viet Nam
 「ベトナム子ども基金」は、ベトナム現地の「青葉奨学会」を通してベトナムの子どもに
 奨学金・支援金を贈っています。